



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2014.4

No.360

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



大宮 氷川神社 カラスの集団ねぐら調査

浅見 徹(さいたま市)

大宮 氷川神社 (大宮公園) でカラスの集団ねぐら調査を実施しました。カラス? 集団ねぐら? そんなこと調べてどうするの? なんて疑問を持たれる方もいるでしょうが、とにかくやっちゃったのです!! やって見たら、面白いのですよ、これが。嘘だと思ったら、この記事を読んでも読んでください。皆さんに、面白さが伝わるとよいのですが……。次回は多くの方々の参加をお待ちしています。

【どうして調査を?】

私の家は、大宮氷川神社の東方約 500m の所にあります。2005-2006 冬、この氷川神社本殿裏の森 (以下、氷川の杜) にミヤマガラスが罅入りするという話を聞きつけ、初めてカラスの罅入りを見に行きました。大宮公園ボート池北側の高木にハシボソガラス、ハシブトガラスそしてミヤマガラスの 3 種、合計 100 羽近くが集結し、日没前後に種類ごとに一斉に飛び立ち、氷川の杜に入ります。鷹柱ならぬ鳥柱を形成することもあり、なかなかの見ものでそれ以来何度か見物に行っていました。

そんな折、Y 会員が中心となって越谷市の久伊豆神社で 10 年以上もカラスの集団ねぐら調査を続けていることを知り、2013 年冬の調査に参加する機会を得られました。ただ見物するだけでも面白いのですが、カウンターを使つての計数調査が、意外と面白いことを初めて知りました。計数調査データの活用方法は色々あるでしょうが、とりあえず難しいことは考えず、氷川の杜でもやってみよう! と始めることにしました。

2014 年 1 月 27 日 (月) 15 時、大宮公園ボ-

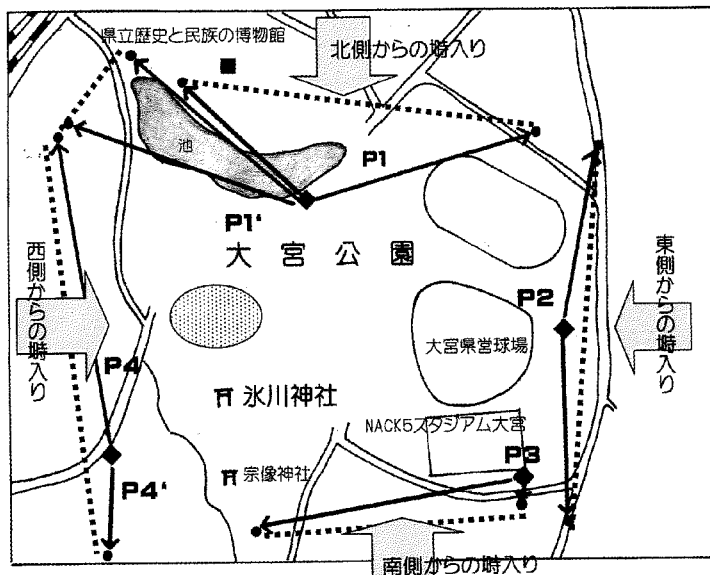


図-1 2014/01/27

大宮氷川神社 カラスの集団ねぐら入り調査位置図

●.....● : 境界
◆P1~P4 : 観察地点

○.....○ : 氷川の杜 (最終ねぐら)

ト池の畔に集まったのは、特別参加のK氏、+Y氏を含む本会会員 5 名の合計 6 人でした。

カラスの集団ねぐらについては、『しらこぼと』で過去に何度か掲載されています^{1)~3)}。この他にも、県内のカラスの集団ねぐらについての調査報告がいくつかあります。調査の目的、意義などについてはこれらに譲るとして、大宮氷川神社での調査概要を以下に紹介します。

【調査の方法】

基本的に、越谷市での久伊豆神社での調査方法に倣いました。

(1)ねぐらを囲む境界線 (以下、「境界」とその境界を越えて出入りするカラスを数える

表-1 カウンター計数 集計結果

観察方向	観察地点	カウンター計数值 (羽)		
		入 (A)	出 (B)	A-B
北側からの罅入り 大宮公園体育館 (P1' 方向)	P 1 : ボート池南東岸	751	99	652
		59	17	42
東側からの罅入り	P 2 : 競輪場南歩道橋デッキ	1,182	77	1,105
南側からの罅入り	P 3 : NACK 5 第 2 入口階段	730	55	675
西側からの罅入り (1) 鳥居下から北側P4方向	P 4 : 裏参道鳥居下	1,402	43	1,359
西側からの罅入り (2) 鳥居下から南側P4' 方向		401	52	349
合計		4,525	343	4,182

罅入り数総計：4,182+C≒4,200 羽 (C：調査開始前から結界内にいた個体数などを考慮)

- 観察地点を図-1のように設定しました。
- (2) 結界を超えて入った数(A)と出た数(B)を、観察地点ごとに数えました。
- (3) この日のさいたま市の日の入りは、17:03でした。調査は、日没の約1時間半前の15:30から日没後約30分の17:30を目途に実施しました。
- (4) カラスの種類別の調査は初めから諦め、一括りに“カラス”としました。

【調査結果】

表-1に集計結果を示します。

【雑感・反省など】

ねぐら入りのピークは日の入りの前後に集中していました。ねぐら入り数(A-B)は、16:45~17:15の30分間で、総数の約60%をカウントしました。夕暮れの空を背景に、次々と沸き立つように現れるカラスの群れは圧巻で、思わず興奮してしまいました。

目視で確認されたカラスの種類は、ミヤマガラス、ハシブトガラス、ハシボソガラスの3種類ですが、鳴き声から判断してコクマルガラスも混ざっていたようです。

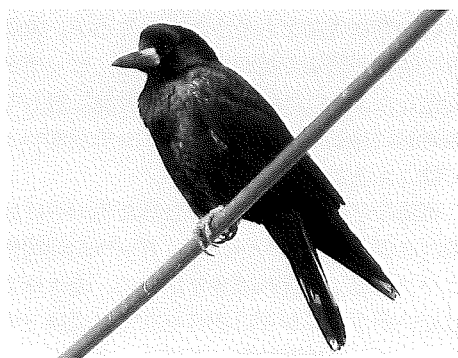
低空で結界を超える個体もいて、観察漏れがあったと思います。また、調査開始前から結界内にいる個体数の把握は困難で、低めに

見積もりました。

快晴、北風と放射冷却の中、調査に参加していただいた方々に感謝します。調査後の反省会は、近くの蕎麦屋で……。興奮冷めやらぬ中での鳥談義に加えて、熱燗と蕎麦で体も心もポッカポカになりました。

参考資料

- 1) 東京駅を中心とした50km圏・東京圏でのカラスの罅分布図と埼玉県内でのようす、しらこぼと、No.242, p2-4(2004.06)
- 2) 黒い鳥ウォッチングーカワウとカラス一、しらこぼと、No.258, p2-3(2005.10)
- 3) 埼玉県平野部におけるカラス類近年の動向、しらこぼと、No.262, p2-3(2006.02)



ミヤマガラス (編集部)

野鳥の音楽(3)

野鳥の楽しみのこと

てこり (さいたま市)

趣味を聞かれて探鳥などを少々、と答えたことがある。相手は、やっぱり北海道ですか？と聞く。北海道もいいですが、九州・沖縄もいいですよと答えると、えっ、そっちにもいるんですか？・・・ここでわかった。探鳥(たんちょう)ではなくバードウォッチングと言えばよかったんだ。私のもう一つの趣味である楽曲作りの方を言ったときには、何が楽しくてそんなことをやるのかという感じで、少し鼻白んだことがある。もっとも、こちらの方はどう言い換えてもマイナーな趣味であることは間違いない。

楽曲作りといっても、作った曲は自分で聴くしかなかったので、純粋に自分の楽しみのためだけでやっていたのだが、最近は投稿サイトもあって楽しみが広がっている。そこで感じたことだが、楽曲作りでは音の響かせ方が非常に大切なようだ。響かせ方ひとつで印象が全然違うのだ。野鳥も自分の歌声を印象付けるために残響を利用しているのではないかと思い、前回オオヨシキリを取り上げた。だが実は野鳥はもう一つ、自分の楽しみのために残響を利用している部分もあるのではないかと気が付いた。以下にその根拠を記すが、こちらも奇説・珍説のたぐいのものであることを、前もって申し上げておく。

ドップラー効果と呼ばれるものがある。救急車のサイレンのピッチが、通り過ぎる前後で変化して聴こえる現象だ。電車の中で聴く踏切の警報音などもそうだ。ところが、救急車の隊員や踏切で待つ人たちには、ピッチが変化したようには聴こえない。音源に対して相対的に移動する場合だけ、ピッチが変わって聴こえるからだ。

草原など開けた場所を好む鳥たちの中には、飛びながら鳴くものがある。セッカの仲間やヒバリなど、挙げればきりが無い。鳴き声ではないがオオジシギは羽音を立てて急降下する。これらを周囲で聴いた場合、多少ピッチ

が違って聴こえるだろうが印象が変わることはない。また飛んでいる鳥には、自分の立てる音はいつでも同じに聴こえている。

ところが、地面に対する反響音となると全く違う。周囲の者には反響音のピッチも同様に変化するので止まって鳴いた場合とまず区別できない。だが音の出し手にははっきりと違いがわかる。なぜなら自分の立てる音と、ピッチの変化した反響音が重なるからだ。ピッチの変化が小さいとうなりが生ずる。大きくなるとハモリになる。ハーモニーだ。これは地面から飛び立つ時や、地面に向かう時に音を出す場合に、その鳥自身だけがハッキリと感じ取ることができる。そして止まって鳴いた場合との違いを楽しむことだってできるのだ。

はるか上空でさえずるヒバリにはもう一つ楽しみがあるはずだ。彼らのさえずりは地面に跳ね返って彼ら自身の耳に届いている。距離があるのでおそらくこだまになっている。そして彼らのアップテンポなメロディーを追いかけるカノンになっているだろう。輪唱と言ってもいい。これは地面にいる者には聴こえない、歌い手だけの楽しみなのだ。

趣味も楽しみでやっているうちは良いが、度を超すと末は「小原庄助」だ。嫁さんに逃げられるリスクもある。だが鳥たちは違う。好きで歌っているだけで縄張りが主張できる。だから食うに困らないし、嫁さんだって見つけられる。なんとうらやましいことではないか。



(はるか上空ではないけど)ヒバリ (編集部)



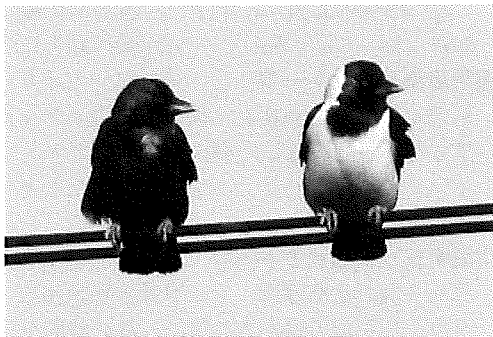
野鳥情報

蓮田市根金 N36. 0216 E139. 6449 ◇12月30日、山の神沼でマガモ♂2羽♀3羽、ヒドリガモ♂2羽♀2羽、オオバン13羽、カイツブリ2羽。環境が改善され野鳥が戻ってきたようだ(長嶋宏之)。

白岡市篠津 N36. 0316 E139. 6422 ◇12月30日、元荒川根金橋下流でオオタカ、ノスリ、ハヤブサ各1羽。イカルチドリ6羽、クサシギ1羽、セグロセキレイ2羽、タヒバリ1羽、コガモ12羽、オオバン2羽、カワラヒワ5羽など(長嶋宏之)。

白岡市柴山 柴山沼 ◇12月30日、カイツブリ3羽、カルガモ40羽、カワウ1羽、コサギ5羽、ダイサギ1羽(長嶋宏之)。

白岡市新井新田 N36. 0429 E139. 6173 ◇12月30日、大山小学校周辺でミヤマガラス50羽±、コクマルガラス淡色型10羽、暗色型100羽±の混群が電線にとまっていた=下写真コクマルガラス=(長嶋宏之)。



久喜市菖蒲町小林 N36. 0680 E139. 5739 ◇12月30日、ノスリ1羽、チョウゲンボウ1羽、ニュウナイスズメ13羽、カワラヒワ50羽±、スズメ100羽±。12月31日、ハヤブサ1羽が電柱にとまっていた(長嶋宏之)。

加須市加須はなさき公園 ◇12月30日、ヒドリガモ30羽±が陸に上がって採餌。カルガモ多数。モズが下の草原に飛び降りて、また元の枝に何度も戻っていた。他にハクセキレイ、カワラヒワ、ウグイスなど(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜 ◇12月31日午前9時、ツグミ1

羽、渡ってきたばかりか、警戒心が強く、木にとまっても目立つ所にてこない。アリスイ1羽、灌木にとまる。茶色みの強い個体だった。アオジ、カシラダカ数羽の群れ、シメ1羽、ベニマシコ♀1羽など。ようやく冬鳥が増えてきた。1月1日午後3時、ツグミの声があちこちから(藤原寛治)。
◇1月19日夕方、ミヤマガラス200~300羽の群れ、コクマルガラス暗色型30羽±、淡色型6羽(本多己秀・久文字)。

さいたま市岩槻区大口 ◇1月1日午後2時45分頃、スーパー「アピタ」の南の田んぼにミヤマガラス約100羽、群れて採餌する。近くの“中の堀川”沿いの電線にもよくとまる(石川敏男)。

春日部市南5丁目 大池親水公園 ◇1月2日午後2時20分~3時、小さな公園だが、お年寄りや家族連れが餌をやりに来るので賑やかだ。カルガモ4羽、コガモ18羽、キンクロハジロ75羽±、キジバト、ユリカモメ120羽±、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、アオジ♂1羽♀1羽。ユリカモメの50羽~60羽の群れが2時45分頃、急に飛び立ちグングン池上空へ上昇してから旋回し始める。鳥柱を立ち上げながら少しずつ南に移動し、やがて横並びとなって南東方面に消える。恐らく古利根川沿いに東京湾へ下ったと思われる(石川敏男)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月2日午後2時~3時、昭和沼でオオバン60羽±、カルガモ多数、マガモ50羽±、キンクロハジロ122羽±、ホシハジロ67羽±、オナガガモ6羽、ヨシガモ1羽、コガモ1羽(今年はコガモが少ない)、ヒドリガモ多数、カンムリカイツブリ3羽、カイツブリ7羽、セグロカモメ1羽、アオサギ、ダイサギ、オオジュリン、アオジなど(本多己秀・久文字)。
◇1月3日、昭和沼の浮島にオオタカ1羽。カラスと同大で下面の細い横斑が白っぽく、上面の羽毛が褐色なことから第2回冬羽♀と思われる。散歩途中の人にスコープで見せてあげたら感動していた。1月19日、トモエガモ1羽、アメリカヒドリ1羽、ミコアイサ♀1羽、カンムリカイツブリ。他に

オオジュリン、カワセミ、ジョウビタキ、セグロカモメなど。1月22日、トモエガモ♂3羽、ヨシガモ♂3羽♀1羽、ミコアイサ♀3羽、バン3羽。高压線の鉄塔と電線にミヤマガラス213羽、その中にコクマルガラスの淡色型が3羽（長嶋宏之）。

北本市北本自然観察公園 ◇1月4日、マガモ、コガモ、アオゲラ♂1羽、ジョウビタキ♂2羽、モズ♂6羽♀2羽、ウグイス、アオジ、ツグミ、シロハラ、シメ2羽+、ヤマガラ2羽。キジ♂3羽、縄張り争いをしていた。至近距離で見る（本多己秀・久文字外1名）。

吉見町八丁湖 ◇1月5日、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、アオジ、カシラダカ、アカハラ、シロハラ、キセキレイなど（本多己秀・久文字）。◇1月14日、トモエガモ♂2羽♀2羽（榎本秀和）。

久喜市柴山枝郷 ◇1月5日、圏央道の工事現場近くの田んぼでミヤマガラスの群れ。コクマルガラスの暗色型も混じる。逆光で見にくかったが、淡色型はいなかった。何かに驚いたのか、一斉に飛び上がったら、200~300羽の大きな群れだった（藤原寛治）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇1月8日、ツミが頭上のシデの枝にとまったが、すぐに飛び去った。一瞬の出来事だった。1月17日、ホオジロ♀3羽が草原から飛び立ち、屋敷林の天辺にとまった。この辺りでホオジロは珍しい。1月20日、2羽のメジロがケヤキの梢でフライキャッチを何度も繰り返していた。1月23日、ツグミが柿の落ち葉を丹念にひっくり返し採餌（長嶋宏之）。

蓮田市馬込 ◇1月9日正午前、ミヤマガラス約100羽が上空を低く乱舞。その中にコクマルガラス暗色型2羽。当地で確認するのは初めて。1月12日午前9時30分、ツミがシラカシの木で「ケーケケ…」と7回鳴いた（本多己秀・久文字）。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇1月12日、芝川でオオバン20羽±、オカヨシガモ♂2羽♀2羽、コガモ。調節池でチュウヒ2羽、チョウゲンボウ1羽、カンムリカイツブリ

1羽、ホシハジロ、キンクロハジロなど。1月25日、カンムリカイツブリ4羽、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ。Nさんからハヤブサがドバトを捕えて、鉄塔上で食事中だと教えていただく。遠くの鉄塔上で羽根をむしっているハヤブサをスコープで観察。調節池の木にノスリ1羽、じっとしていた。上空をオオタカが通過。小型のタカが滑空して、調節池の中の低い木にとまる。背中の色が濃い。眉斑が目立たなかったのがハイタカの♂か。遠かったので、少し近づこうとしたら飛ばれてしまった（藤原寛治）。

鴻巣市滝間室 ◇1月13日午前9時過ぎ、荒川にかかる御成橋の上を、1羽のセグロカモメが目線の高さで南から北へ横切る。この日、北風が強く、向かい風の中を北上してきたもよう（榎本秀和）。

さいたま市岩槻区掛 ◇1月14日午後3時30分頃、ミヤマガラス40羽位が、西側に移動しながら採餌していた。ハシボソガラス、ハシブトガラスも混ざっていた。暫くして更に西側の元荒川に沿った上流方向に輪を描くようにして飛んでいった（菊川和男）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇1月16日、カオログビチョウ2羽を見た後に見たガビチョウ2羽が可愛く感じた。他に亜種ダイサギ、イソシギ、タヒバリ、エナガ、ノスリなど（長嶋宏之）。

川島町三ツ又沼ビオトープ ◇1月18日、タゲリ7羽が上空通過。チュウヒと思われるタカ1羽が沼の縁の木の枝に、長い時間とまっていた。他にベニマシコ♀1羽、アオジ、モズ、シメ、ツグミ、アオサギなど（長嶋宏之）。

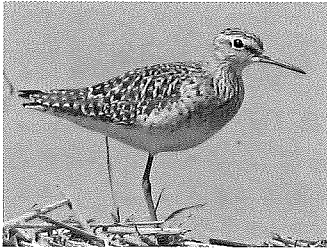
蓮田市黒浜沼 ◇1月19日夕方、タシギ1羽、キジ1羽、アオサギ1羽。（本多己秀・久文字）。

表紙の写真

ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属コチョウゲンボウ 2月18日坂東大橋の下、残雪20cmの河原で、流木に休むオス1羽に出会いました。
森田文三郎(本庄市)



行事案内



タカブシギ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥がいたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：恒例のお花見探鳥会です。エドヒガンは葉桜でも、ソメイヨシノはまだまだ見頃でしょう。もちろん、旅立ち前の冬鳥たちも、埼玉に着いたばかりのツバメたちも私たちを出迎えてくれるでしょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月6日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤、赤堀、大井、倉林、須崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：寒く厳しかった冬を乗り越えた春の鳥たちが、見沼田んぼに来ています。厳しかった分だけ、温かい春が待ちどおしいですね。花の香りの漂うヘルシーロード沿いを歩きます。調節のできる服装で、お越しください。また、バスの春の運行時刻改

正にご注意ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：千鳥、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手の桜も満開でしょう。ツグミ、シメ、カシラダカ、アオジなどの冬鳥を探し、ツバメと再会、ウグイスやヒバリのさえずりを聞きながら野鳥の森まで歩きます。オオタカも飛んでくれるでしょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月13日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木、長谷部、水谷、持丸

見どころ：この時期は、カモ類は期待できませんので、周辺の緑地を中心に歩きます。昨年開発した新コースは歩きやすく、変化に富んでいます。早い緑を楽しみながら、夏鳥の先遣隊を探しましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月19日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室



ノスリにモビング(星進)

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ(ご注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：北へ去る鳥、南から来る鳥、新しい命を育て始める鳥…、にぎわいの季節を迎えた三室で、鳥たちの暮らしを、ちょっとのぞいてみましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月20日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口(三井住友銀行前)から、朝日バス③番乗り場8:41発春日部エミナース行きで、「共栄大学入口」下車(260円)。西へ徒歩約7分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安
見どころ：長くて厳しい冬は過ぎ去り、みずみずしい新緑の季節です。冬鳥や漂鳥たちと入れ替わりに夏の小鳥たちがやってきます。雑木林や屋敷林の樹冠・林床の落葉、田んぼや畔の草地、用水路土手などを耳や目を凝らして探してみましょう。今年ほど

んな鳥と出会えるかな。

ご注意：帰路のバスは上記バス停発春日部駅西口行13:07、14:20(バスの発時刻は2月現在のもの)です。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月27日(日)

集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口⑤番バス乗り場から、大久保浄水場行き8:33発で「桜区役所」下車。

担当：小林(み)、赤堀、石塚、海老原、倉林、新部、星野、増田

見どころ：30年前の春、当会の探鳥会はここから始まりました。昔も今も、海を越えて渡ってきた夏鳥たちが秋ヶ瀬の森でひと休みしています。森を彩る花々との出会いも楽しみです。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月29日(火・祝)

集合：午前8時50分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス②番乗り場から鳩山ニュータウン行き8:25発で「大東文化大学」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、岡安、千島、増尾、松下
見どころ：新緑の里山風景を見ながら渡り途中の鳥を探します。キビタキ、オオルリ、センダイムシクイなどが見られる頃です。足元に咲く春の草花にも目を向けてみましょう。

ご注意：アップダウンのある山道を歩きます。足ごしらえはしっかりと。道路の渋滞が予想されるため集合時刻を早くしました。バスおよび集合の時刻にご注意ください。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(火・祝)

当会では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。ぜひ、参加・ご協力をお願いします。

◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の西北角
近くの土手の上（運動公園入り口）。

担当：石井（研究部）

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要。小雨決行ですが、大雨や悪天候の場合は中止します。なお、シギ・チドリ類が少ないこともあります。「やつしまニュータウン」バス停から土手の上を歩き集合地点に向かう道は、3月末に通れるようになってはいるはずですが、詳しくは数日前から当会HPでお知らせします。ご確認ください。

栃木県・奥日光 戦場ヶ原探鳥会（要予約）

期日：5月18日（日）

集合：午前6時45分、JR武蔵野線北朝霞駅前
ロータリーの交番前。

交通：往復貸切バス（大型）を使用。

解散：集合場所にて午後8時30分ころの予定。
費用：6,500円の予定。（バス代・保険料など）
過不足の場合は当日清算します。

定員：25名（応募多数の場合、先着順）。最少
催行人数15名。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢（保
険加入に必要）、電話番号を明記し、入山
博（ ）

まで。4月1日消印以降から有効受付としま
す。（郵便料金変更にご注意ください。）

担当：入山、中村（豊）、藤澤、星、持丸

見どころ：夏鳥たちの美しい歌声は、まるで
吹奏楽。奥日光の若葉が皆さんをお待ちし
ています。

ご注意：湯ノ湖から光徳牧場まで、約6kmを
歩きます。昼食持参。雨天決行。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月24日（土）～25日（日）

集合：24日午前9時、長野駅コンコース、新
幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52
→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野
8:44着）、または「あさま505号」（東京
7:24→大宮7:48→長野8:49着）

解散：25日午後4時ころ、長野駅前。

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス

代、保険料など）。過不足の場合は当日精
算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：25名（先着順、埼玉会員優先）。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性
別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱
沼一充（ ）

まで。4月1日消印以降から有効受付としま
す。

担当：菱沼（一）、浅見、藤掛

見どころ：私たちの地元ではお目にかかれな
い山の小鳥たちに会いに行きましょう。ア
カショウビンは来ているかな？ ノジコ
とアオジのさえずりの違いを耳で覚えま
しょう。戸隠神社の宿坊、伝統の奥田旅館
のオ・モ・テ・ナ・シと、車送迎付きの源
泉掛け流し温泉も、魅力です。

「〇〇女」ってよく耳にしますが・・・

最近、「〇〇女」という言葉をよく耳にしま
す。「女」は「オンナ」ではなく「ジョ」と読
ませることが多いようです。テツジョ、リケ
ジョ、ドボジョなど。そしてついに先日、床
屋で散髪しながらラジオから流れてきたパー
ソナリティの声に、「トリジョ」！ 今、バー
ドウォッチングが若い女性の間でトレンドー
なのだそうです。ゲストとして日本野鳥の
会東京の女性幹事がバードウォッチングの魅
力と、最近の取り組みについて紹介していま
した。確か、彼女のお名前はOさん。東京支
部始まって以来、最年少の幹事さんだそうで、
弱冠25歳。彼女、なかなかのアイデアマン（失
礼、レディ）で、女性だけの探鳥会やヤング
向けの探鳥会などを企画して「トリジョ」の
増殖に励んでいるようです。羨まし～！ イ
エ、イエ そのあなたが想像したような意味
ではありませんよ。会員の若返りは、わが埼
玉でも喫緊の課題ですが、現在の幹事は人生
経験の長～い男性中心。どうも企画がイマイ
チ・・・。会員のヤング諸君、ぜひ、貴方
のお知恵と行動力をお貸しください。お便り、
お待ちしております。 （編集部）



行事報告

11月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 28名 天気: 快晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン イカルチドリ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ (26種) (番外: ドバト) 最近オオバンがよく見られるようになった。見られなくなったのがゴイサギ。近頃ではめったに現れない。環境の変化で鳥の生活も変わるのだろうが、人の目では鳥の判断基準は分からない。こんなにいるの? 皆さんも経験あるでしょ。(長谷部謙二)

11月30日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 60名 天気: 晴

キジ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン タゲリ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ ハヤブサ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (48種+カモ科ハクチョウ属不明種1) (番外: ドバト) 駐車場隣の草地でタゲリを観察しながらのスタート。全体的に小鳥の数が少ないものの、ベニマシコだけはそこここで見られた。谷中湖にはミコアイサも入っていて、いつも通りのチュウヒの姿も。(佐野和宏)

12月1日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 23名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ キンク

ロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン カワセミ モズ オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) 始めてすぐにカワラヒワとツグミとモズが現れ、幸先が良い。青毛掘川ではコガモ、カルガモ、マガモの飛翔姿を上から観察。その後、刈田のハクセキレイと人家の屋根のセグロセキレイの声を聞き分けながら公園に戻った。波のプールに潜水ガモの雌が1羽。キンクロハジロかスズガモかで盛り上がった。ボート池ではカワセミを全員が見られた。池を回って陸で採餌するヒドリガモを観察。植物園でウグイスの地鳴きに耳を傾けているとき、鉄塔の最上段にミヤマガラス4羽を発見。カラス談義に花を咲かせながら終了した。(長嶋宏之)

12月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 63名 天気: 快晴

コジュケイ マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ クイナ バン オオタカ ノスリ コゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ カワラヒワ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) 学習センターの情報では、それなりの種類の鳥が到着しているが、前々日の下見では羽数は少なく感じた。それでも探鳥会当日は、下見よりは羽数も増え、ウソ♀1羽とオオタカの旋回を多くの人が見る事が出来た。また、カシラダカは1ヶ所のみであったが、20羽前後の群れをほぼ全員が観察できた。(吉原俊雄)

12月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 48名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ コサギ クイナ オオバン タゲリ チュウヒ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシ

コ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (40種) (番外:ドバト) タゲリの群れを上空に眺めてからスタート。芝川沿いでは、ベニマシコ、クイナ、カワセミと、立て続けに人気者が出てくれて盛り上がったが、あとは尻つぼみ。ツグミたちなどの冬の鳥がほとんどいない。来るのがおきているのか、渡ってくる数が少ないのか。年々渡来数が減っているようで気になる。(伊藤芳晴)

12月7日(土) 所沢市 狭山湖
参加:21名 天気:晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ トモエガモ
コガモ ホシハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ
アオサギ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ コゲラ アカゲラ モズ ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ シロハラ
ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ アオジ (32種)
(番外:ガビチョウ、ドバト) 冬鳥が少ない! ジョウビタキは姿を見られたがシロハラは声のみで、ツグミ、シメといった定番がゼロ。カイツブリ類は昨年並みに来ているがカモ類は種、数とも少なめだ。トモエガモ♀をしっかりと観察出来たのが救いだった。「はるばると渡り来たれる客なれば 浮き寝の鳥に風はそよ吹け」 (石光 章)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生
参加:29名 天気:快晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト
カワウ アオサギ ダイサギ トビ オオタカ
ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ
ハヤブサ モズ ハシブトガラス シジュウカラ
ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ
ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ
カシラダカ アオジ (32種) 出発して直ぐに上空にチョウゲンボウが飛来。続いて鉄塔にとまっただのはオオタカだった。遠くにハヤブサの姿、上空高いところを通過して行った。草地には鳥の声もない。進行方向の道にキジ♂♀、ゴルフ場の境の木にモズ♂、ジョウビタキ♀は木の中を移動していた。ツグミが木にとまっていた。河原に向かう道でシメが飛び回っていた。河原に出ると遠くの木にノスリ。カワセミもいてくれた。野鳥の森入

口で下見の時に鳴いていたルリビタキは、鳴きもしなかった。池でコガモを初めて見て、最後にシロハラが水を飲みに見れた。(千島康幸)

12月11日(水) 加須市 渡良瀬遊水地
参加:26名 天気:晴

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン タゲリ カモメ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ノスリ
アリスイ コゲラ ハヤブサ ミヤマガラス ハシブトガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒヨドリ ウグイス ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ
ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (44種) (番外:ドバト) 谷中湖に着くとハジロカイツブリが近くに浮かんでいた。ミサゴの優雅な飛翔と獲物の魚を食べるパフォーマンスに加えて、浮島の木に止まっているノスリとチュウヒをじっくりと見ることができた。後半になって白くなったミコアイサ2羽をみんなで見られて盛り上がり、ベニマシコやオオジュリン等の小鳥達も姿を現して参加者を喜ばせてくれた。(玉井正晴)

12月14日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加:54名 天気:快晴

マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コゲラ アカゲラ アオゲラ
モズ ハシブトガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ
メジロ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ ビンズイ カワラヒワ シメ イカル
ホオジロ アオジ (32種) (番外:ガビチョウ) 開始して間もなく2羽のコゲラがケヤキの幹を上っているのを観察。日本庭園に入ると♀のジョウビタキ。さらにその奥の方には♂のルリビタキ。雑木林では、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロの小混群が飛び交っていた。ふれあい広場のラクウショウに、実をほおぼるシメの姿を見つけ、ゆっくり観察。疎林広場ではビンズイ。山田大沼のカモは10月下旬頃をピークにして数がかなり減ったが、マガモやコガモが見られた。(中村豊己)



●葛西臨海公園のオリンピックカヌー競技場建設計画の見直しを求める署名活動

日本野鳥の会東京からの2月25日付けメールによれば、「競技大会組織委員会の設立や新東京都知事の就任があり、競技施設の本格的な検討を行う準備が整いつつあります。計画変更の活動はこれからが本番という意気込みで、葛西臨海公園の自然を守る活動を積極的に進めてまいります」とのこと。2月5日(水)の衆議院予算委員会で、計画変更の必要性があることを指摘した議員質問がされたことなどの報告もあり、従来のインターネットによる署名活動に加え、書面による署名活動も開始することになりました。

当会(埼玉)HPのトップページからも、署名用紙をダウンロードできるようにしました。幅広いご協力をお願いします。

●会員の普及活動

2月22日(土)、新ハイキングクラブ(東京都)主催、「野鳥を観る・知る、第9回・見沼たんぼ」において、小林みどり、浅見徹、工藤洋三、柴野耕一郎、藤田敏恵、星進の6名が指導しました。

●県の鳥獣保護員推薦

県の鳥獣保護事業実施業務の一端を担う平成26年度の鳥獣保護員として、県環境部長からの依頼に対し、橋口長和、小荷田行男、小林みどりの3名を推薦しました。

●ごめんなさいコーナー

前号6ページ、表紙の写真撮影者「宇野

澤晃(さいたま市)」とあるのは、「宇野澤晃(蕨市)」の誤りでした。

●会員数は

3月3日現在1,828人。

活動と予定

●2月の活動

2月8日(土)『しらこぼと』3月号校正(海老原美夫、小林みどり、長嶋宏之)。

9日(日)同(海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司)。降雪のため、2日間にわたり実施。

2月16日(日)役員会(司会:石川敏男、各部の報告・5~8月の行事予定・鳥獣保護員推薦・その他)。

2月17日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』3月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

●4月の予定

4月5日(土) 研究部・編集部・普及部会。

4月12日(土) 5月号校正(午後4時から)。

4月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

4月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

漫画『とりばん』を描いている人が同じ職場にいる。すすめられて読んでみた。餌台に来る野鳥たちとのどたばたから始まっている。・・・「うんうん、あるある」「そうそう」「へーっ」。何度も大笑い。そして今までの鳥見観がぐらぐら。(山部)

職場の職員旅行が今年は横浜だった。2日目は、朝から自由行動。よし、城ヶ島で海鳥だ!!と準備していたら、当日は、朝から雪…それも大雪。結局、ホテルに泊まっただけで帰ってきました。(藤)

しらこぼと 2014年4月号(第360号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社